

# 観光科学研究

第8号 2015年3月

首都大学東京 大学院  
都市環境科学研究科  
観光科学域

[本保芳明 教授 退職記念号]

[論説]

過去のオリンピック・パラリンピックの経験を踏まえた  
2020 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたインバウンド振興策に関する一考察  
本保芳明・矢ヶ崎紀子

日本型マーケティングの戦略課題: JTB にみる革新の方向  
池尾恭一

わが国宿泊業の業績評価における管理会計情報の利用実態  
長谷川恵一

米国観光立地事例より展望する日本の観光立国・地域づくりへの道標と地域活性化への試案  
原忠之

歴史的町並みにおける訪問客のまなざしとロイヤルティの関係  
直井岳人・十代田朗・飯島祥二

地域の観光振興のためのモニターツアーの活用のあり方に関する研究  
伊藤正太・川原晋

都市部の簡易宿所型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究  
片桐由希子・梶山桃子・東秀紀

日韓観光産業からの二酸化炭素排出量推計  
—その抑制に向けた展望—  
清水哲夫・印承煥

都市農山漁村交流施設としての廃校活用における活用検討プロセスと運営体制に関する研究  
平田徳恵・小林茉莉奈・川原晋

沖縄における陸域での新たなサンゴ保全技術の開発  
第2報「シカクマメバンド」の最適化  
伊ヶ崎健大・大前英・南雲不二男・岩井香泳子・小崎隆

マルタ共和国マルサシュロックにおける漁村観光と空間構成  
太田慧・飯塚遼

北京大都市圏の農村変容からみた観光地化の潜在的可能性  
菊地俊夫・王鵬飛

ジオパークにおける酒造業を取り込んだジオストーリーの構築  
—糸魚川ジオパークを事例にして—  
坂口豪・飯塚遼・菊地俊夫

帯広市ばんえい競馬観光客の馬券購入特性  
櫻澤明樹・保坂哲朗・沼田真也

島嶼地域における観光特性と人口・産業特性の関係に関する一考察  
高橋環太郎

上野地域におけるジャイアントパンダの社会的意義  
土居利光

[研究ノート]

写真共有サイト投稿データを利用した新たな観光マップの構築  
倉田陽平・相尚寿・真田風

バスツアーにおける立ち寄り地の種類と特徴  
小池拓矢

WebGISによる観光統計データの地理的可視化  
杉本興運・池田拓生



# 目 次

[本保芳明 教授 退職記念号]	
本保芳明 教授 略歴等 .....	1
[論説]	
過去のオリンピック・パラリンピックの経験を踏まえた 2020 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたインバウンド振興策に関する一考察 本保芳明・矢ヶ崎紀子 .....	3
日本型マーケティングの戦略課題：JTB にみる革新の方向 池尾恭一 .....	13
わが国宿泊業の業績評価における管理会計情報の利用実態 長谷川恵一 .....	25
米国観光立地事例より展望する日本の観光立国・地域づくりへの道標と地域活性化への試案 原忠之 .....	33
歴史的町並みにおける訪問客のまなざしとロイヤルティの関係 直井岳人・十代田朗・飯島祥二 .....	43
地域の観光振興のためのモニターツアーの活用のあり方に関する研究 伊藤正太・川原晋 .....	51
都市部の簡易宿所型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究 片桐由希子・梶山桃子・東秀紀 .....	61
日韓観光産業からの二酸化炭素排出量推計 —その抑制に向けた展望— 清水哲夫・印承煥 .....	71
都市農山漁村交流施設としての廃校活用における活用検討プロセスと運営体制に関する研究 平田徳恵・小林茉莉奈・川原晋 .....	81
沖縄における陸域での新たなサンゴ保全技術の開発 第2報「シカクマメバンド」の最適化 伊ヶ崎健大・大前英・南雲不二男・岩井香泳子・小崎隆 .....	91
マルタ共和国マルサシュロックにおける漁村観光と空間構成 太田慧・飯塚遼 .....	99
北京大都市圏の農村変容からみた観光地化の潜在的可能性 菊地俊夫・王鵬飛 .....	107
ジオパークにおける酒造業を取り込んだジオストーリーの構築 —糸魚川ジオパークを事例にして— 坂口豪・飯塚遼・菊地俊夫 .....	115
帯広市ばんえい競馬観光客の馬券購入特性 櫻澤明樹・保坂哲朗・沼田真也 .....	125
島嶼地域における観光特性と人口・産業特性の関係に関する一考察 高橋環太郎 .....	133
上野地域におけるジャイアントパンダの社会的意義 土居利光 .....	141
[研究ノート]	
写真共有サイト投稿データを利用した新たな観光マップの構築 倉田陽平・相尚寿・真田風 .....	151
バスツアーにおける立ち寄り地の種類と特徴 小池拓矢 .....	155
WebGIS による観光統計データの地理的可視化 杉本興運・池田拓生 .....	163

# CONTENTS

[The Commemoration Number for the Retirement of Professor Yoshiaki Hompo]	
Biography, Publications, and Social Contributions of Professor Yoshiaki Hompo .....	1
[Research Articles]	
Japan's Inbound Strategies Using 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games Based on the Experiences of the Past Games	
Yoshiaki Hompo, Noriko Yagasaki .....	3
Strategic Issues for the Japanese Marketing: A Case Study on Directions of Innovation on the JTB	
Kyoichi Ikeo .....	13
Performance Accounting in the Lodging Industry in Japan	
Keiichi Hasegawa .....	25
Overview of Japanese Paths towards Nation/Region Dependent on Tourism as an Industry and Revitalization of Regional Economies: Lessons from a Tourism-Dependent Region in the USA	
Tadayuki Hara .....	33
Relationship between Visitors' Gaze and Their Loyalty to a Historical District	
Taketo Naoi, Akira Soshiroda, Shoji Iijima .....	43
Utilizing of Monitor of Package Tour for Tourism	
Shota Ito, Susumu Kawahara .....	51
A Study on Space and Experiences of Exchange Between Tourists and Local People in Guest Houses	
Yukiko Katagiri, Momoko Kajiyama, Hideki Azuma .....	61
Estimation of CO <sub>2</sub> Emission Volume by Japanese and Korean Tourism Industries	
Tetsuo Shimizu, Seunghwan In .....	71
A Study of Closed School in Rural Areas on Process for Conversion and Its Management System	
Norie Hirata, Marina Kobayashi, Susumu Kawahara .....	81
Development of a New Land Management Practice for Coral Conservation in Okinawa, Japan	
2. Optimization of the "Winged Bean Band"	
Kenta Ikazaki, Hide Omae, Fujio Nagumo, Kaeko Iwai, Takashi Kosaki .....	91
Fishing Village Tourism and Spatial Construction in Marsaxlokk, Malta	
Kei Ota, Ryo Iizuka .....	99
Potentiality of Tourism Development Based on Rural Changes in the Beijing Metropolitan Region	
Toshio Kikuchi, Wang Pongfei .....	107
Construction of the Geo-story Incorporating Sake Brewing Industries in the Geopark: A Case Study of Itoigawa Geopark, Central Japan	
Suguru Sakaguchi, Ryo Iizuka, Toshio Kikuchi .....	115
Consumption Behavior of Tourists to Ban'ei Horse Racing, Obihiro, Japan	
Haruki Sakurazawa, Tetsuro Hosaka, Shinya Numata .....	125
A Study on the Relationship between Tourism Characteristics and Demographic, Industrial Characteristics in the Island Regions of Japan	
Kantaro Takahashi .....	133
Social Significance of Giant Panda in the Ueno Area	
Toshimitsu Doi .....	141
[Research Notes]	
Creation of Innovative Tourist Maps based on the User-Posted Data of a Photo-Sharing Site	
Yohei Kurata, Hisatoshi Ai, Fu Sanada .....	151
The Kinds of Destinations in Bus Tours and Their Features	
Takuya Koike .....	155
Geo-Visualization of Tourism Statistics Data on a Web-Based GIS	
Koun Sugimoto, Takumu Ikeda .....	163



ほんぼ よしあき

本保 芳明 1949年4月20日生

## 学歴

---

- 1968年3月 北海道立小樽桜陽高等学校卒業
- 1972年3月 東京工業大学理工学部社会工学科卒業
- 1974年3月 東京工業大学大学院社会工学研究科修士課程修了

## 職歴

---

- 1974年4月 運輸省入省（航空局総務課）
- 1983年4月 独立行政法人国際観光振興機構（JNTO） ジュネーブ事務所出向
- 1991年1月 経済協力開発機構（OECD） 日本政府代表部参事官
- 1997年7月 運輸省運輸政策局観光企画課長
- 2001年7月 国土交通省大臣官房審議官（海事局・港湾局併任）
- 2002年7月 国土交通省大臣官房審議官（航空局併任）
- 2003年4月 日本郵政公社理事（物流・国際部）兼郵便事業本部副本部長
- 2005年4月 日本郵政公社理事専務執行役員兼郵便事業総本部エクスプレス事業本部長
- 2007年6月 日本郵政公社 辞職
- 2007年7月 国土交通省大臣官房総合観光政策審議官
- 2008年10月 国土交通省観光庁長官
- 2010年1月 国土交通省辞職
- 2010年4月 首都大学東京教授就任（現在に至る）
- 2013年7月 東北公益文科大学客員教授就任（現在に至る）
- 2013年9月 UNWTO 世界観光倫理委員会委員就任（現在に至る）
- 2014年1月 観光庁参与就任（現在に至る）
- 2014年11月 東京工業大学特任教授就任（現在に至る）

## 各種委員会、学会活動、講師・地域活動等

---

- 2011年 平成23年度観光教育に関する大学学長・学部長等会議（事務局）
- 2011年 観光庁「観光立国推進ラウンドテーブル」（モデレーター）
- 2012年～ 三重県観光審議会委員
- 2012年～ 三重県政策アドバイザー
- 2012-13年 山形大学高度人材育成カリキュラム検討委員会共同委員長
- 2012年～ 和歌山大学観光学部・大学院観光研究科観光教育アドバイザーリーボード・メンバー
- 2012年～ 韓国大使館アドバイザー
- 2012年～ インバウンド研究会委員長

- 2012年～ 国家公務員共済連合会宿泊施設経営改善委員会委員  
2013年～ 森記念財団国際推進研究会委員長  
2013年～ 三重県都圏営業拠点経済効果指標検討会座長  
2013-14年 日本旅行業協会旅行業法特別検討委員会委員  
2014年 京都市観光政策審議会副会長  
2014年～ 大丸有都市型 MICE サロン座長

## 主要著作・論文等

---

### 論文

- 本保芳明・矢ヶ崎紀子（2014）過去のオリンピック・パラリンピックの経験を踏まえた 2020 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたインバウンド振興策に関する一考察, 観光科学研究 8, pp.1-9.  
本保芳明（2014）転機にある日本観光 琉球大学観光科学 8, pp.51-59  
原 辰徳・嶋田 敏・古賀 毅・青山和浩・矢部直人・倉田陽平・本保芳明・浅野武富・加藤 誠（2011）訪日外国人に対する観光旅行サービスの企画支援に向けて一旅行者と旅行会社の立場からみた観光情報の分解と構成, 観光と情報 7(1), pp.29-46.  
原 辰徳・古賀 毅・青山和浩・矢部直人・倉田陽平・本保芳明・浅野武富・加藤 誠（2011）訪日外国人に対する観光旅行サービスの高度化に関する研究構想—顧客経験と設計生産活動の解明による顧客参加型のサービス構成支援に向けて—, 観光科学研究 4, pp.113-121.

### 口頭発表

- 矢部直人・倉田陽平・本保芳明（2011）：「訪日外国人消費動向調査個票データを用いた訪日外国人の観光行動の類型化」,第 8 回観光情報学会全国大会, 2011/6/11, 札幌（北海商科大学）  
Yabe, N., Kurata, Y., and Honpo, Y. (2011): "Clustering Behaviors of Inbound Tourist: An Analysis of Individual Data of "Consumption Trend Survey for Foreigners Visiting Japan"". ISSUE 2011, pp.63-64, Poster, 八王子, 2011/11 .  
Hara, T., Shimada, S., Yabe, N., Kurata, Y., Aoyama, K. and Honpo, Y.(2012) Value Co-Creation in Tourism: Incorporating Non-Expert's Design into Expert's Design Activities. 1st International Conference on Human Side of Service Engineering.

## 特定学術研究

---

- 受託研究費（観光庁 観光経営マネジメント教育推進のための産学共同研究）：「旅行業のグローバル事業展開に伴う人材育成戦略」分担（2010.9-2011.3）  
受託研究費（観光庁 観光経営マネジメント教育推進のための産学共同研究）：「デスティネーション・マーケティングの研究」分担（2011.9-2012.3）  
提案公募研究費（日本科学技術振興機構(JST) 問題解決型サービス科学研究開発プログラム）：「顧客経験と設計生産活動の解明による顧客参加型のサービス構成支援法～観光サービスにおけるツアー設計プロセスの高度化を例として～」分担（2010.10-2013.8）

# 「観光科学研究」投稿規定

## I. 投稿の資格

本誌への投稿は、首都大学東京の教員、院生や研究生を含む学生を基本とする。教員については非常勤や首都大学東京での勤務経験者（OB）を含む。連名による投稿の場合も最低一名、上記の関係者を含むことが望ましい。

観光科学に関連性があり、学術的な価値を有するものであれば、外部からの投稿も可能とする。

学生が主著者として論文を執筆する場合には、指導教員に学術論文としての体裁が整っていることを確認されたものであることを投稿の条件とする。

## II. 原稿の種類

原稿の種類は、論説、展望、研究ノート、討論、報告、その他とする。

- ・論説は、オリジナルな学術研究の成果で、関連学会あるいはその他の研究集会において討議を経たものを原則とし、他の学術雑誌に報告されていないものとする。
- ・展望は、ある主題に関する研究成果を分析・検討し、研究の流れ・現状・展望などについて著者の見解を付したものとする。
- ・研究ノートは、オリジナルな学術研究の中間報告や新しいデータ・資料などとする。
- ・討論は、特定の研究テーマにおける専門的な意見交換や相互討論とする。
- ・報告は、特色のある調査・計画・事業等の報告、あるいは、演習・実習・巡検等の報告とし、観光科学に関する新たな知見を含むと認められるものとする。
- ・その他、書評、各種ソフトの紹介、地域の情報、研究発表要旨など関連する分野の研究・教育に関する情報や意見については、随時「観光科学研究」編集委員会（以降、編集委員会）の判断で掲載の可否を検討する。

## III. 原稿の分量

図表を含む基準ページ数は、執筆要項に定めるフォーマットを用いた状態で、全て10以内とする。超過は原則として認めないが、内容上やむを得ない場合に限り、投稿者の申し出によって認める場合がある。この場合は、超過分の必要経費の支払いを求める場合がある。

## IV. 投稿の期限

例年3月を発行月とし、投稿のメ切は発行月の前年12月10日とする。編集委員会から依頼した原稿の締切は1月10日とする。

## V. 投稿方法

別途に定める「観光科学研究執筆要項」の定めるところによる。

## VI. 「観光科学研究」編集委員会

編集委員会は、首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコースの専任・併任の教員で構成し、委員長および委員は、同コース会議において決定する。

論文の匿名査読者は、編集委員会のなかかこに設置される査読委員会が依頼する当該論文の審査に適任の学内外の研究者とする。

その他、編集委員会に必要な事項については、別途定めるものとする。

## VII. 論文等の採否

- 1)原稿は、本投稿規定および執筆要領に従って執筆するものとし、これらに準拠していない原稿は受付しないことがある。
- 2)論説、展望、研究ノート、討論は、上記査読委員会の審査による判定により、採否を決定する。判断基準は、以下のとおりとする。
  - ①完成度：観光科学研究の学術論文として体裁が整っており、内容が簡潔、明瞭かつ容易に記述されていること。主に以下に示す事項により評価される。
    - a)論文題目の適切性
    - b)論文構成上のバランス
    - c)表現・用語、関連文献引用等の適切性
    - d)図表等の表現の適切性
  - ②新規性：内容が既発表または既知のことから容易に導き得るものでないこと。たとえば、以下に示すような事項に該当する場合は新規性があると評価される。
    - a)研究の主題、内容、使用した概念、手法に独創性がある。
    - b)学界、社会に重要な問題を提起している。
    - c)現象の解明に貢献している。
  - ③有用性：内容が観光科学分野の論文として価値があ

ること。たとえば、以下に示すような事項に該当する場合は有用性があると評価され

- a)問題意識・課題設定が適切である。
- b)応用性、発展性がある。
- c)当該分野での体系化を図り、将来の展望を与えている。

④信頼性：内容に誤りがなく、論証に信用がおけるものであり、既往の研究との関係が明らかなこと。ただし、完成度や信頼度が以下に示すような事項に該当する場合や、萌芽的研究としての発展が期待できる論文は、その価値を評価する。

- a)検証は十分とはいえないが、理論や定式化が学問の発展性に有用である。
- b)文献調査は十分とはいえないが、着眼点に新規性があり、研究の位置付けは明確である。

⑤適時性・先駆性：取り上げる内容が、一般には知られていない観光科学研究上の新たな知見を含み、時宜を得たテーマであること。

3)なお、下表に示すとおり、原稿の種類によって重視する判断基準は異なる。

原稿カテゴリー 判断基準	論説	展望	研究 ノート	討論
①完成度 (共通基準)	○	○	○	○
②新規性	○		○	
③有用性	○	○		○
④信頼性	○	○		○
⑤適時性・ 先駆性			○	○

4)報告及びその他の原稿に関しては、編集委員会による形式的なチェックのみ行い、採否を決定する。

5)内容の訂正などを指摘された原稿については指定された締め切りまでに改訂原稿が投稿されない場合、審査を終了する。

6)内容の訂正に際して、著者は修正要求・修正希望に指摘された事項に適切に対応するものとするが、指摘の範囲以外の修正をすることは原則としてできない。

7)審査の結果が「不採用」の場合で、その不採用理由に対して、論文の著者が明らかに不当と考えた場合は、その理由を明記した文章を作成し、不採用通知

より4週間以内に編集委員宛に異議を申し立てることができる。

## VIII. 付則

この規定の変更は、「観光科学研究」編集委員会からの提案を受けて、自然・文化ツーリズムコース会議の議を経ておこなう。その他必要な事項は、「観光科学研究」編集委員会において決定する。

この規定は、2007年9月3日に制定、施行する。

(2013年10月25日、2014年01月09日一部修正)

# 「観光科学研究」執筆要領

## I. 原稿の基本様式

原稿は、原則として「観光科学研究」編集委員会が提供するテンプレートをダウンロードしたうえで、第一次原稿はWord形式で、最終原稿（採用となった原稿）はPDF形式で提出すること。

テンプレートは下記 URL よりダウンロードできる。

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/journal.html>

投稿原稿は日本語または英語とする。英語を母国語としない投稿者が英語で投稿する場合は、事前にネイティブチェックを受けることを強く推奨する。校閲者の能力不足が原因で、編集委員会が独自に英文の校正を委託した場合は、その実費を投稿者に求める。

テンプレート使用及びファイル形式の指定の目的は、第一にフォーマットの統一および分量の正確な把握であり、第二は事務局および印刷所との原稿受け渡しの迅速化にある。

## II. 投稿方法

原稿は電子メールに添付して当該年度の編集委員長宛に送信するか、適切なメディアに記録して郵送する。受理された原稿は返却しない。ただし、図表などは求めがあれば返却に応じる。

なお、投稿の際は、必ず投稿原稿の種別を明示すること（論説、展望、研究ノート、フォーラム、書評、研究、発表要旨、その他）。

### 郵送での提出先：

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース「観光科学研究」編集委員会 宛

## III. 執筆上の留意点

- 1)原稿は多くの人々に読まれ、理解されやすいように書く。
- 2)簡潔に記述し、読者が内容の大すじを見失うことのないように書く。
- 3)読者に結論とその利用法をはっきりつかませることができるよう書く。
- 4)他の文献等から引用を行う場合には、著作権に触れることのないように十分留意するとともに、必ずその出典を明らかにする。

## IV. 執筆方法

### 4.1 文章

- 1) 原稿は、横22文字、縦45行の2段組とする。数字およびローマ字は半角扱いとする。見出し前後のスペースの取り方はテンプレートに準拠する。項目ごとのポイント数およびフォントも同じ。
- 2)ヘッダーやフッターにページ数をつけない。
- 3)簡潔平明な理解しやすいひらがなまじりの口語体とする。章立ては原則として次の例に準拠し、本文中で触れる場合は「1では」、「2.1(2)において」のように言及すること。

章 I. II. III. IV. . . . .

項 1.1 1.2 1.3 1.4 . . . . .

目 (1) (2) (3) (4) . . . . .

### 4.2 用字, 用語

文章は、常用漢字と現代かなづかいを用いる。やむをえず常用漢字以外の漢字を用いる場合は、その後ろに括弧付きで読み方を標記すること。また、数字はアラビア数字（数量を表すとき）を用いる。

年号は原則として西暦を用いる。元号の表記が必要な場合は、「1972年（昭和47年）の生まれである」のように、西暦の後ろへ併記する。

ローマ字、ギリシャ文字、イタリック体文字はその区別を明確にする。

本文、図・表とも句読点は、「,」（カンマ）,「。」（丸）に統一する。

### 4.3 数式

数式は重要なものだけを示す。詳細な説明が必要な時には付録に示す。例えば、

(8pt・半行程度のスペース)

$$a \times x + b = c \quad (1)$$

(8pt・半行程度のスペース)

のように記述する。できるだけ Word のオブジェクト中に準備されている数式エディタを用いる。文章の中に数式が入る時は、誤解のないよう注意して1行で書く。

### 4.4 図・表

- 1) 図・表の数はできるだけ少なくし、重要でないもの



は省く。図と表とが同一内容の時には、どちらか一方にする。

- 2) 複製したものは避ける。必要な場合は、掲載前に現著作権者へ転載の許可を取っておくこと。
- 3) 図の目盛線、表の罫線の間隔は、見やすくなるように設定する。
- 4) 図・表・写真は原稿中に貼付して提出する。刷上りの大きさを考慮し、図・表中の文字、記号については縮小後でも判別できる大きさに記入する。なお、不明確な図・表や大きな図・表については、編集委員会から修正を求められることがある。
- 5) 図や写真は白黒を基本とするが、編集委員会が論文内容の表現上、必要と見なした場合は、カラー図の掲載も許可されることがある。許可されない図表のカラー印刷を希望する場合は、別途実費の支払いを求める場合がある。
- 6) 図(写真)・表のキャプションは以下のようにし、図の場合は図の下側、表の場合は表の上側に置く。

図1 ○○○○

表2 □□□□



図1 ラスタ演算による日米ツーリズム空間の差分解析結果

#### 4.5 摘要

内容を端的に要約した日本語のアブストラクトを800字以内で論文の巻頭に、また英語のアブストラクトを200 words以内で巻末に添付する。

### V. 文献の引用・注記のしかた

- 1) 参考文献は本文の末尾にまとめて記載する。
- 2) 注記を入れる場合は、本文中の引用箇所の右肩に、小括弧を付した注記番号を文献の番号を記入する

(例：文献1)を参照)。そして、本文と文献リストの間に、注をまとめて挿入すること。

- 3) 本文中で文献を引用する際は、次のように表記する。  
(例1) ブリティッシュコロンビア州における自然公園の保護政策については、Dearden and Rollins (2002) に整理されている。  
(例2) Downs は、未就学児童に対する読図および経路探索実験から、子どもの地図化能力は生得的なものではないとの主張を展開した(Downs et al. 1988, p.123; 若林・鈴木 2005, pp.456-789)。
- 4) 文献目録の記載例

#### 【雑誌】

(例1) 東京太郎・大阪次郎 1997. 太郎と次郎の将来展望. 観光三郎研究 18(3): 140-144.

(例2) Cornelius, C., Navarrete, S.A. and Marquet, P.A. 2001. Effects of human activity on the structure of coastal marine bird assemblages in Central Chile. Conservation Biology 15 (5): 1396-1404.

#### 【単行本】

(例1) 岡本伸之 2001. 「観光学入門: ポスト・マス・ツーリズムの観光学」. 東京: 有斐閣.

(例2) Cerny, T.B. 1993. Renewable Energy. Island Press.

#### 注

- 1) 著者数が多い場合は、本文中においては「ほか何名」、「et al.」を付して筆頭者名のみとする。ただし、参考文献欄においては、原則として全著者の名前を記載すること。
- 2) 雑誌名の略記は、各分野において一般的なものを用いる。
- 3) 文章を直接引用する場合は、「」でその文章を挟み、最後に引用した頁の始まり頁と終わり頁を明示する「このように記すこと」(pp. 100-111)。直接引用をしない場合は、著者名と出版年のみ記す(観光太郎 1987)。
- 4) 一般的でない文献については詳しく記入する。

参考文献は以下のような書式に統一し、文末に並べる。謝辞を加える場合は、本文が終わったあとに「謝辞」の項目を設け、そこに挿入する。

#### 参考文献

早崎正城 2002. 観光学における史的考察. 長崎国際大学論叢 2: 111-118.

竹内謙彰 1998. 「空間認知の発達, 個人, 性差と環境要因」. 東京: 風間書房.

中村哲. 観光におけるマスメディアの影響. 前田勇(編著)

2007. 「21 世紀の観光学: 展望と課題」: 83-100.

Nash, R. 2006. Causal network methodology: tourism research applications. *Annals of Tourism Research* 33(4): 335-349.

Daimon, T., Nishimura, M. and Kawashima, H. 2000. Study of drivers' behavioral characteristics for designing interfaces of in-vehicle navigation systems based on national and regional factors. *Japanese Society of Automotive Engineers Review* 21: 379-384.

Downs, R.M. and Liben, L.S. 1992. Children's understanding of maps. In P. Ellen and C. Thinus-Blanc (eds.) 1987. *Cognitive processes and spatial cognition in animal and man: vol.2 neurophysiology and developmental aspects*. Martinus Nijhoff Publishers: 202-219.

Impacts of Tourism on Marine Wildlife; <http://www.gse.mq.edu.au/Research/mmr/Tourism.htm>. (アクセス日 2007.5.25)

## VI. その他

連絡先に電子メールのアドレスを記入するか否かは、著者に一任する。

最終原稿の pdf ファイルを執筆者に提供するとともに、希望者には実費にて別刷りを配布する。

## VII. 付則

この規定の変更は、「観光科学研究」編集委員会からの提案を受けて、自然・文化ツーリズムコース会議の議を経ておこなう。

その他必要な事項は、「観光科学研究」編集委員会において決定する。

この規定は、2007 年9 月3 日に制定、施行する。

## 付録

付表 1 各項目のポイント数

項目	ポイント数
表題 (和文)	16
表題 (英文)	14
著者名 (和文)	12
著者名 (英文)	9
脚注の著者連絡先	9
章のタイトル	11
アブストラクト	10
本文	10
参考文献	9
注	9
謝辞	9

なお、表中の文字のポイント数は特に指定しない。

フォントについては、付表 2 のフォントを使用する。なお、英数字と括弧は原則として半角とするが、章番号だけは全角とする。

付表 2 Windows と Macintosh のフォントの対応

	Windows	Macintosh
明朝体	MS 明朝	細明朝体または MS 明朝
ゴシック体	MS ゴシック	中ゴシック体または MS ゴシック
Times	Times New Roman	Times
Arial	Arial	Arial
Symbol	Symbol	Symbol

(2008 年 2 月 2 日, 2011 年 2 月 12 日, 2013 年 2 月 18 日, 2013 年 10 月 25 日, 2014 年 01 月 09 日一部修正)

「観光科学研究第8号」編集委員会

東 秀紀  
本保 芳明  
小崎 隆  
◎ 菊地 俊夫  
清水 哲夫  
川原 晋  
直井 岳人  
沼田 真也  
倉田 陽平  
片桐由希子  
相 尚寿  
岡村 祐  
○ 杉本 興運

(◎委員長 ○担当幹事)

平成 27 年 1 月 20 日 印刷

平成 27 年 1 月 31 日 発行

## 観光科学研究 第8号

(本保芳明 教授 退職記念号)

編集兼発行 首都大学東京 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域  
〒192-0364 東京都八王子市南大沢 1-1 9号館  
TEL 042-677-2665

印刷 株式会社 相模プリント  
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本 1-14-17  
TEL 042-772-1275

# The International Journal of Tourism Science

Vol.8 March 2015

**Tokyo Metropolitan University**  
**Graduate School of Urban Environmental Sciences**  
**Department of Tourism Science**

[The Commemoration Number for the Retirement of Professor Yoshiaki Hongo]

[Research Articles]

Japan's Inbound Strategies Using 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games Based on the Experiences of the Past Games  
Yoshiaki Hongo, Noriko Yagasaki

Strategic Issues for the Japanese Marketing: A Case Study on Directions of Innovation on the JTB  
Kyoichi Ikee

Performance Accounting in the Lodging Industry in Japan  
Keiichi Hasegawa

Overview of Japanese Paths towards Nation/Region Dependent on Tourism as an Industry  
and Revitalization of Regional Economies: Lessons from a Tourism-Dependent Region in the USA  
Tadayuki Hara

Relationship between Visitors' Gaze and Their Loyalty to a Historical District  
Taketo Naoi, Akira Soshiroda, Shoji Iijima

Utilizing of Monitor of Package Tour for Tourism  
Shota Ito, Susumu Kawahara

A Study on Space and Experiences of Exchange Between Tourists and Local People in Guest Houses  
Yukiko Katagiri, Momoko Kajiyama, Hideki Azuma

Estimation of CO<sub>2</sub> Emission Volume by Japanese and Korean Tourism Industries  
Tetsuo Shimizu, Seunghwan In

A Study of Closed School in Rural Areas on Process for Conversion and Its Management System  
Norie Hirata, Marina Kobayashi, Susumu Kawahara

Development of a New Land Management Practice for Coral Conservation in Okinawa, Japan  
2. Optimization of the "Winged Bean Band"

Kenta Ikazaki, Hide Omae, Fujio Nagumo, Kaeko Iwai, Takashi Kosaki

Fishing Village Tourism and Spatial Construction in Marsaxlokk, Malta  
Kei Ota, Ryo Iizuka

Potentiality of Tourism Development Based on Rural Changes in the Beijing Metropolitan Region  
Toshio Kikuchi, Wang Pongfei

Construction of the Geo-story Incorporating Sake Brewing Industries in the Geopark: A Case Study of Itoigawa Geopark, Central Japan  
Suguru Sakaguchi, Ryo Iizuka, Toshio Kikuchi

Consumption Behavior of Tourists to Ban'ei Horse Racing, Obihiro, Japan  
Haruki Sakurazawa, Tetsuro Hosaka, Shinya Numata

A Study on the Relationship between Tourism Characteristics and Demographic, Industrial Characteristics in the Island Regions of Japan  
Kantaro Takahashi

Social Significance of Giant Panda in the Ueno Area  
Toshimitsu Doi

[Research Notes]

Creation of Innovative Tourist Maps based on the User-Posted Data of a Photo-Sharing Site  
Yohei Kurata, Hisatoshi Ai, Fu Sanada

The Kinds of Destinations in Bus Tours and Their Features  
Takuya Koike

Geo-Visualization of Tourism Statistics Data on a Web-Based GIS  
Koun Sugimoto, Takumu Ikeda



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

首都大学東京